

CESA プログラム

『自然と暮らしを守る河川工事と河畔林の吸収する CO₂』

石田川障害防止対策工事 作業所

日時 平成 22 年 7 月 5 日 13:30~15:30

高島市立今津北小学校 6 年生 29 名



高島鉦建 株式会社

発注者 : 滋賀県 高島土木事務所河川砂防課

現場名 : 滋賀県発注 石田川障害防止対策工事

施工場所: 滋賀県高島市今津町福岡

工期 : 平成 21 年 8 月 31～平成 23 年 1 月 28 日

工事概要: 河川土工(掘削工 6,600m³ 盛土工 5,400m³)

護岸工 1,802m²

床止め工(取付擁壁工 22.7m 鋼矢板 62 枚)

仮設工 1 式 附帯構造物工 1 式

主催 : 高島鉦建 株式会社

共催 : NPO 法人 CESA

協力 : 滋賀県 高島土木事務所河川砂防課

NGO 環境計画市民会議

今回の CESA プログラムの趣旨

メディアの過剰なまでの取り上げにより、公共工事に対するイメージが悪くなる事が多い中で、なぜ、この工事が必要なのか、環境破壊をしているのではないかなど、多くの方が誤解をされておられます。

今回の工事の必要性や作業現場での環境の取り組み、自然を残しながら工事を進めている事、その草木などの勉強。建設機械からの見える景色を体感していただくことにより、その必要性の理解と、環境保護の取り組みを肌で感じていただくため、このような取り組みを実施しております。

高島市立 今津北小学校にて CESA プログラムの開始です。

6年生の代表者からこの授業に対する興味と工事現場を通じて、学びたい事を発表していただきました。



高島土木事務所河川砂防課の岡田さんから **河川工事のお話し**がありました。この河川工事は河畔林を残し、工事の方法についても魚にやさしい形を選び、みんなの生活を危険から守れるよう進めていますと説明がありました。

高島鉦建 株式会社 采野作業所長より **工事現場の環境の取り組み**について、作業で発生したドロ水を川に流さない工夫や、自然にやさしい機械を使っていることなどお話しがありました。



そして NPO 法人 CESA 今村環境マスターより **石田川川辺の環境と河畔林が地球温暖化の原因とされる CO₂の吸収**について勉強を行いました。この後、作業現場へ行きの様々な発見をしていただきたいです。

『トイレをすませてバスに乗り工事現場へ出かけよう！！』

今回は、短い時間の中で、できるだけみんなに体験してもらえるように2班に分かれて行動しました。A班は河畔林の観察とCO₂の測定へ。B班は工事現場の説明と建設機械の乗車体験をしました。

A班は今村環境マスターと河畔林へ行き、

植物のCO₂を吸収する量を調べました。

CO₂の吸収量を調べるためには木の名前や種類、太さや大きさを測らなくてはなりません。今村環境マスターに木の測り方を教えてもらったらいざ測定へ！！



みんなで木を計ってみよう！

太い木はみんなで協力しながら、“**すごい3メートルを超えている！**”なかなかこんな大きな木を測ることはないですよ。

太さを測ったら次は高さを測りました。高さってどうやって測るの？もしかして木に登ったり？答えは2メートルのポールを木にあてて遠くから見て指で間隔をつくって高さを測ります。大体こんなくらいかなって測り方です。



B班は工事職員から**工事の説明**を聞きました。難しい言葉ばかりでしたが、わからないことにはしっかりと質問できました。



では実際に、**工事で使っている材料に触れてみよう!** コンクリート製品や石、コンクリートに触れてみました。カゴを見ると入りたくなるのは**なぜ?**ととりあえず記念撮影しました。



なかなか生コンクリートに触る機会はないので、みんな**興味深々**。棒でコネコネしました。



材料を持ってみて重さを体験しました。みんな見た目よりも重いのに**ビックリ!** 気合で持ち上げました。

『建設機械に乗ってみよう！』

みんな楽しみにしていた**建設機械の乗車体験**です。工事職員に、どうやって動かすの？どんなときに使うの？と質問攻め。今回は乗車体験だけではなく、大型ダンプに乗り、死角の体験をしてもらいました。友達どうして「そこは見えへん」、「そこやったら見える」そんな会話が聞こえてきました。普段、道では運転手さんの見えないところには行かないように学びました。



ヘルメットをかぶり、記念撮影。少しの時間でしたがオペレーターの気分を味わっていただけでした。みんな笑顔でいい思い出ができました。

「学校に戻って」

木の測定結果をまとめ、木ごとのCO₂吸収量を計算しました。環境破壊が進んでいく中で、木1本が私たちに与えてくれている物を数値で確かめることができ、自然の大切さを身近に感じ、学びました。



私たちと致しましては、子どもたちを教育するといったことはできませんが、今、色々なことを吸収する子どもたちに対して、建設業だからできる勉強の場を提供していきたい、このようなプログラムを開催しております。

石田川では平成7年5月に現場見学しましたところから1km上流で浸水の被害がでており、常に洪水の危険にさらされています。近年の公共投資の著しい削減により、工事が少しずつしか進みません。無駄な公共事業は、たくさんあると思います。しかし本当に必要な公共事業もあります。メディアは、悪いことだけを大々的に取り上げ、物事の本質については、伝えてくれないため、公共事業＝ムダとのイメージが定着してしまいました。高島鉦建といたしましては、地域密着型、自然との共存をモットウに様々な活動を通じて、人々の生命と安全と快適生活の推進を進めてまいりたいと考えております。



6年生の代表者から自然の大切さ、自分たち生きるうえで木の与えてくれる物の大きさを知ることができました。建設業のイメージが変わったと感想を言っていました。

